

ゼロカーボン達成に向けた取組みの推進に関する陳情書

討論要旨 谷口武司議員

2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロに。これは、陳情者の趣旨にもあるとおり、昨年10月の菅内閣総理大臣の所信表明演説で表明されております。また、同年11月に開催された主要国20か国地域首脳会議、通称G20サミットで、総理大臣発言で既に国際公約となっております。

市や県の枠を越えて、国として既にゴールが決まった状況にあります。我々の置かれた立場は、国民、県民、そして尾張旭市民それぞれの場において、この国の決定の是非を自らに問い、是とするのであれば、その方策を練っていく状況にあると思われれます。例えるならば、私たち、あなた方が旅行に行こうとして、目的地を決めます。移動手段や経路、途中で立ち寄りところや旅費を計画せずに家を出るでしょうか。それが家族を連れての場合だとか友人家族との旅行の場合、もしくは学校単位での場合はどうでしょうか。関わる人が多くなる立場になれば、計画はより重要になってまいります。

2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロを是とする立場であるならば、ゴールは既に決まっております。これから問われるのは、その手法と予算立て、つまり確実にゴールに向かう計画だと思えます。

本市においては、令和5年に計画期間が満了する環境基本計画、関連が深い地球温暖化対策実行計画事務事業編がより近い計画になります。

さらに、中核都市ではない本市が地球温暖化対策実行計画の区域施策編に取り組むかどうかが、今、問われております。

陳情者からの本市への陳情事項を確認させていただくと、陳情事項1は、3月定例会では、他会派の代表質問に答える形で森市長からゼロカーボンシティについて、市民への意識づけを考慮した考え方などが発言されております。

また、6月議会では、私の一般質問において、2050年までに温室効果ガス排出を実質的にゼロに向けて、本市行政の取組と市民と行政が共に取り組む事項について順次質問をさせていただいております。その中で、地球温暖化対策実行計画事務事業編の令和12年までの削減目標値、これは、国が本年4月22日まで目標としていた削減率26%の削減目標値を、令和元年度末には本市が既にクリアしていたことを確認しております。

また、陳情2や4についても、本市においては環境ISO14001の家庭版や、さらに市民が取り組みやすくした独自事業を継続して取り組んでいるとの答弁がされていることを考慮すると、本市に対する陳情者からの陳情事項は、既に取り組まれていると考えられている状況にもあります。

陳情者の趣旨や陳情事項は所々思いはあるものの、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするというゴールを共有するという意味で、本陳情第3号に対する賛成討論とさせていただきます。